

明日をひらく人権のつどい

「～ヤサシイハナ ヲ サカセマシヨウ～

みんなで考える SNS の今と未来」

日時: 2025年12月7日(日)

場所: SHOWA グループ市民会館

参加人数 621人

(市推協 第4回全体研修会)

明日をひらく人権のつどいに参加して

氷丘南小学校区 関戸 二郎

「第30回 明日をひらく人権のつどい」が12月7日(日)、SHOWA グループ市民会館中ホールで開催され、NPO 法人リメンバーハナ代表の木村響子さんによる講演(演題『～ヤサシイハナ ヲ サカセマシヨウ～みんなで考える SNS の今と未来』)が行われました。

令和2年5月、木村さんの娘である元プロレスラーの木村花さんは、テレビのリアリティ番組出演がもとで、人権を無視した、攻撃的で侮辱的な誹謗中傷のコメントを SNS で受け続け、苦しみ、生きる望みを失い、耐えきれず、22歳で自ら命を絶ちました。警視庁は誹謗中傷した加害者を侮辱罪で書類送検し、裁判で有罪の判決が出ました。

木村さんは、花さんの死後、悲しみや苦しみ、無力感にさいなまれる中、花さんのために NPO 法人リメンバーハナを立ち上げました。そして二度とこの様な悲しいことが起こらないように、誹謗中傷による被害者も加害者も無くなる事を目標に、花さんが望んでいた「優しい世界」に近づけるために、自らを奮い立たせ、髪型を現役当時のアフロヘアに戻し、積極的に全国で啓発活動に取り組まれています。その内容は誹謗中傷への開示請求、刑事民事での法的措置、人権差別問題の講演、家庭や学校での SNS 教育・講演活動、法制度改正への活動、こどもに対する絵本の朗読等、多岐にわたります。

講演は、木村さんと参加者との有意義な質疑応答で進められました。その内容は・SNS で怖いところ・あなたや大切な人が誹謗中傷を受けたらどうする・批判と誹謗中傷との違い・人はどんな時に誹謗中傷するのか等で参加者の皆さんも積極的に関わっていました。

SNS での誹謗中傷は刃物と同じで、時には人が傷つき、亡くなることもあります。人間が平等、公平に自由に生きていく事は、憲法で保障されており誰も犯すことの出来ない権利です。しかし、まだまだ被害者救済が進んでいない現状があります。最も必要なことは、「助けて」の SOS が言える環境づくり、気軽に相談ができる家族や仲間づくりだと思われれます。

最後には現役当時、女子プロレスで、母親と娘が真剣に戦っている映像が流され、講師、参加者、スタッフ関係者全員の惜しみない拍手で終わった講演会でした。



【講演されている木村響子さん】

明日をひらく人権のつどい 参加者の感想

(アンケートより抜粋)

- 木村花さんについて、当時の私は就職活動中でニュースの情報で見聞きするぐらいだったので、今回の講演で木村花さんのお人柄や SNS の怖さを知ることができてよかったです。SNS が普及して、いい意味でも悪い意味でも、簡単に発信できる今だからこそ、一人一人が人権について深く考えなければいけない時代になっているなと感じました。(20歳代)
- 大人ばかりの参加だと、参加型講演会は難しいと思った。でも、この内容や参加型は学校でやってもらえたら子ども達はいいと思った。SNS の使い方や誹謗中傷の怖さはこれから関わってくる子どもに聞かせたい内容だと思った。(30歳代)
- とても心に響く内容でした。人を傷つきたい子はいない、だけど自分を守るためだったり、ストレスだったり、ねたみだったりでポロリと言ってしまうたりして加害者になってしまう！若い方、中・高生にぜひ話してほしい、聞いてほしいと思いました。今心に響かなくても、心の隅に何か一言でも残ることがあると思います。学生達にぜひ！！(40歳代)
- 相手の気持ちを思いやる。人には色々な考えがあり、自分の考えが「絶対」ではない。2人の子どもがいる私は、花さんという大切な存在をなくされ、辛い中で大切なことを伝えようとしてくださっている木村さんに本当に感謝します。自分も改めて胆に銘じ、また子ども達にもしっかり伝えたいと思います。そして愛していること、愛されていることを必ず伝えます。(40歳代)
- 実際に被害にまきこまれた方の言葉は重みがあると思います。これからもこのような講演を続けていてもらいたいと思います。批判と誹謗中傷のちがいについては知っておくべきと思いました。学校でも子どもたちに伝えていきたいと思います。(50歳代)
- 人権とはすべての人にあたえられた権利です。にもかかわらず SNS の誹謗中傷は加害者ともなり被害者にもなります。そういった意味で一人一人が責任をもってより深く考えていかなければならないとあらためて思いました。木村響子さんの明るさは、これまでの悲しさの裏返しと思われる。(60歳代)
- 木村花さんの自死原因等については、ニュースで知っていたが、自分の年代からすると SNS の利用は限られており、SNS での誹謗中傷については人権課題としての認識はあったが、具体的には身近なものでは無かった。今回木村響子さんの講演に接し、子を亡くした親の悲しみだけでは無く、このような事を無くす社会をめざす姿勢を感じた。SNS のおそろしさ、利便さなど利用する側の指導を子どもの頃からやる事が必要だと思った。(70歳代)
- 当事者だからできる話、できることをもっと話された方が良かったように思う。心が感じることでよりも知識が多かったのが残念でした。(年齢未回答)

市同協・市推協 合同理事研修会

加古川市人権啓発推進員協議会 副会長 坂田 亨

令和7年度の市同協・市推協の合同理事研修会は、講師に一般財団法人児童虐待防止機構オレンジCAPO理事長の島田妙子さんをお迎えし、「幸せってなんだっけ？～人にも自分にも優しい社会をめざして～」と題して、ご講演いただきました。平日の午後にもかかわらず、会場は満席で、参加者の関心の高さが伺えました。

講師の島田さんは神戸市出身ということで、関西弁の口調に親近感を覚え、身構えることなく講演が聞けた方も多かったのではないのでしょうか。



【講演されている島田妙子さん】

講演内容は、島田さんご自身の生い立ち、怒りに任せて虐待をしてしまう心理、怒りのコントロール方法の3つです。ご自身の生い立ちでは、兄2人と仲の良い3人兄妹であったこと、7歳の頃からの実父と継母の虐待を受けたこと、中学校の担任が虐待を見抜いてくれたこと、兄が2人とも若くして亡くなったことが講演活動を始めるきっかけになったこと、など想像するに堪えない生活であったことを赤裸々に話されました。

怒りに任せて虐待をしてしまう心理では、自分より弱い立場の者を怒る相手に選んでいること、怒りの根源は「こうあるべき」という個人的にゆずれないこだわりであること、を話されました。

また、怒りのコントロール方法では、怒りに任せて相手を攻撃するのではなく、自分の感情を上手に表現すること、と学びました。なるほど、そうか！と思える事がたくさんありました。

参加者が一方的に聞くだけでなく、隣席の参加者と最近腹が立ったことについて意見交換するなど、90分間があつという間の大変有意義な時間でした。虐待を経験した島田さんの講演を聞くことで、虐待が身近な問題であること、また、虐待を防止するために私たち一人一人にもできることがあると学習できました。

参加者の感想 (アンケートより抜粋)

○非常に聴きやすかったです。まずは、自分の心を知り、気づき、コントロールする事が他人への配慮につながると感じました。(40歳代)

○怒りのコントロールができれば自分も人も傷つけないのではと思います。怒りは自分の基準で物事を考えるからだと思いました。まだまだ年齢関係なく訓練できると思いますので意識していきたいと思います。(50歳代)

○つらい経験の中、精力的に人権活動をされている姿、感銘を受けました。怒りのマネジメント、もっと詳しく知りたいです。テンポのよい多岐にわたる話でよくわかりました。(60歳代)

○「自分のきげんは自分でとる」人のせいにならないことの大切さを再認識しました。

一方、怒りを否定だけするのではなく、うまく付き合っていくこと、利用することができればと思いました。最後の「地域でできることはなにか」についても意識していきたいと思います。(60歳代)

○怒りのコントロールについて非常に参考になりました。妻とのコミュニケーションにおいて今の考え方、物事の良し悪しなどチャレンジしてみたい。(70歳代)

○とても聞きやすくうなずきの多い講師先生のお話でした。とても学びのある講演でした。(70歳代)

○体験に基づいた話は心に沁みる。「怒りは敵ではない」新鮮なことばだった。今こそコミュニケーション。(70歳代)

市長・教育長を囲む会

加古川市人権啓発推進員協議会

副会長

梶田 実

2025年12月17日（水）、市役所にて「市長・教育長を囲む会」が開催されました。この会は、市推協の三役が加古川市における人権課題への取組や町内懇談会のあり方などについて、市長、教育長及び関係部署の幹部と意見交換するものです。

まず岡田市長より、市推員の50年以上にわたる各地域での町懇をはじめ、人権に関する学び、SNSにおける誹謗中傷への問題提起など、

時代の変化に合わせた活動に対し感謝の言葉をいただきました。また、浜田会長より市推協の活動の現状について、研修会等を一部昼開催に変更しましたが、懸念された参加率に変化はなく今後も継続を検討しますと報告がありました。その後、市推協の三役の意見として「多くの人に人権講演会に来ていただくため吹奏楽を取り入れている」、「市推の研修として体験することで記憶に残してもらい次につなげていく」、「町内の祭りの場でPTAの方にこどもの人権の研修会をPRした結果、多くの方が参加くださった」、「町懇の参加者が固定化、高齢化しており、幅広い年齢層の方にも参加できるよう模索している」などの報告がありました。

最後に、小南教育長から市推協役員の熱い思いが感じられる、いろいろな形で工夫しながら人を集めて研修会をやっていることに感謝を述べられました。



【市長・教育長を囲む会での会議の様子】

新しいDVD 紹介します



「見上げれば」

企画/兵庫県

(公財)兵庫県人権啓発協会

【テーマ】

「社会におけるひきこもりと人権
～誰もが支え合える社会の実現をめざして～」

【作品内容】

ひきこもりの背景や状態は人それぞれですが、長期化すると社会や人に対する恐怖感が強まり、本人や家族の人生に深刻な影響を与えます。就職・再就職の難しさ、家族もどうしていいかわからず心身が疲弊するなど、その苦悩は計り知れません。さらに、地域社会との関わりが乏しく存在が見えづらいため、家族だけで悩みを抱え込む現実があります。

このドラマでは、できるだけ早い段階で適切な支援につながることの重要性、信頼できる他者とのつながりや、寄り添ってくれる人のいる「居場所」が回復のきっかけになることを伝えます。どのような状況の人にも、寄り添い合い、誰もが支え合える社会の実現をめざし、人権啓発ドラマを制作しました。

(公財)兵庫県人権啓発協会 HP 協会作成資料「ビデオ」

「兵庫県制作のビデオ」見上げれば(2025)より転載

編集後記

アかるくイいきウきうキエがおでオもしろく関心が持てる広報をめざしました。日々の気づきが人権につながり、アイウエオのように軽やかに。これからも一緒に学び合う地域でありたいです。

(加古川市人権啓発推進員協議会 会計 小林 由美子)